

AGU NEWS No. 30

青山学院大学

AGUニュース第30号
[2006年1月～3月号]

青山学院大学・広報入試センター広報課
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-8111(代表)
URL: <http://www.aoyama.ac.jp/agunews/>



青山キャンパス

特集  AOYAMA
GAKUIN
UNIVERSITY

新春対談 松澤建 新理事長 × 武藤元昭 学長

AGU TOPIC

相模原キャンパスがサステナブル建築・住宅賞受賞
日韓露3カ国の音楽家によるチャリティー・コンサート開催

TOPICS

国際政治経済学部と国連大学との共催公開シンポジウム
第1回国際宇宙ロボットコンテストで審査員特別賞受賞
経営学部創立40周年記念公開シンポジウム

報告・お知らせ

2006年度学事暦
2006年度学年初頭行事について

誌上公開講座

教養コア科目歴史理解関連科目
「歴史と人間(総合科目)」

INFORMATION

2006年度一般入学試験日程
「青山学院大学町田グラウンド」奉献式

松澤建 新理事長×武藤元昭 学長

昨年11月、日本興亜損害保険株式会社代表取締役社長である松澤建氏が、青山学院理事長に就任。今回の特集は、魚住清彦副学長の司会により、新理事長をお迎えして武藤元昭学長との対談を行い、これからの青山学院大学のこと、教育にかける思いについて、忌憚なく意見を交わしていただきました。

改善すべき課題に対しては、スピード感を持って対応します。

司会 今回、ビジネスの最前線で活躍されている新理事長を迎え、その手腕に私たち大学執行部も大きな期待を抱いております。

松澤 私を育ててくれた青山学院のために、金融界での経験を少しでも活かすことができれば、これに勝る喜びはありません。これまでも青山学院の理事を務めさせていただいておりましたので、武藤学長とはすでに何度もお会いしております。

武藤 企業経営者でもある松澤理事長の存在は、今後、本学に良い意味での緊張感を与えてくださるでしょうね。

松澤 もちろん、私も学院を預かる重大な責任を身に染みて感じておりますが、同時に学院の発展のため、武藤学長をはじめとする教職員のみなさんと一緒に仕事ができることを、実はとても楽しみにしております。

司会 まず、松澤理事長の今後の学院運営に対するビジョンをお聞かせください。

松澤 一言で申せば「変えるべきものは変え、変えてはならないものは守り抜く」ということでしょうか。キリスト教信仰に基づく建学の精神の遵守、教育・研究における質の向上、財政基盤の安定、そして、社会からさらに評価される学院づくり……羽坂勇司前理事長が標榜されたこの4つの柱を、引き続き基本に据え、学院の運営に臨んでいく所存です。その一方、企業でも学校法人でも、世の中にパーフェクトな組織はありません。青山学院にも時代の変化に応じて改善すべき点があるでしょう。そうした課題に対しては、スピード感をもって対応していくつもりです。そしてそのためには、大学執行部の方をはじめ、学院で働く教職員のみなさんと、今後は広く意見交換を行っていく必要があると思っております。時には異なる意見

がぶつかり合うこともあるかもしれません。しかし、すべての価値判断基準を「青山学院のために」に置きさえすれば、自ずと適切な答えが導きだされるはず。答えが出たなら、あとは教職員一丸となってその実現に邁進するのみです。

青山学院の発展のためなら議論、激論大歓迎です。

武藤 今の松澤理事長のお話にまったく同感です。特に「青山学院のために」という確固たる価値判断基準を掲げていらっしゃることに、強く共感します。私自身も学長就任時に「すべての教職員は学生の方を向いて仕事をする」ことを掲げました。

松澤 ああ、それは基本的に私の言わんとしたことと同じですね。

武藤 ありがたいことです。ところで松澤理事長は、経営者として、すべての社員の意見や提案を聴く仕組みを作り、「風通しの良い社風」をモットーにされているとうかがっています。

松澤 ええ、社員が自由に意見が言える環境の中でこそ、良い経営ができるのです。

武藤 実は私も「風通しの良い大学」をモットーに、学生と教職員、そして教員と事務職員、お互いが自由に意見を交わせる大学づくりを志しているのです。

松澤 うれしいですね。私たちは志を共有しているようです。

司会 ただ、多くの人々の意見を集約する過程では、相反する意見などがぶつかり合う状況も多いわけです。松澤理事長が、経営者として多くの社員の意見を採り上げる場合に、どのように采配をふるわれていらっしゃるのか、ぜひおうかがいしたいです。

松澤 私はいたって基本に忠実な人間ですので、経営者としての説明責任を果たした上で、ひたすら誠心誠意、意を尽くして相手と話し合

うだけです。それぞれの立場で意見が異なるのは当たり前なので、議論、時には激論も大歓迎。かつて私はマレーシアで合併会社の立ち上げに関わったことがあります。その際にはさまざまな宗教・人種の人々が、まさに侃々諤々の議論をしました。しかしながら、企業として利益を上げるという目的では全員が一致していましたから、最終的には事業を成功に導くことができました。それと同じく「青山学院のために」という共通の目標さえしっかりと共有していれば、この少子・高齢化社会の逆風の中、積極果敢に、また正しい方向へ、青山学院を導くことができると私は信じております。

武藤 議論をしながらも、それぞれの立場で責任を全うするということですね。私は物事ははっきり申し上げるタイプの人間ですので、松澤理事長も忌憚ないご意見を私たち大学執行部に投げかけてください。活発なコミュニケーションによって、今後、さらに法人本部と大学の距離を縮めていきたいと思っております。

松澤 いいですね。何でもおっしゃってください。私は「学生」になったつもりで、武藤学長をはじめとする大学の先生方から、虚心坦懐に、大学の教育・研究について学ばせていただきたいと思っております。



私たちが育てたいのは、 「柔の中の剛」を感じさせる若者

司会 松澤理事長も本学ご出身ですが、青山学院大学の卒業生は、社会でどのように評価されているのでしょうか。

松澤 青学出身者の人間性に対する企業社会の評価は、きわめて高いです。キリスト教をバックボーンとする人間教育の賜物でしょう。



ぜいたくをいえば、その人柄の良さに変化の激しい時代をたくましく生き抜く力強さ、積極性が加われば言うことはありません。

武藤 都心のキリスト教大学である本学には、一般的に上品でソフトなイメージがありますので、入学してくる学生も、自然と人柄のよい優しいタイプが多くなるようです。私はそのことが本学の美点の一つと思っておりますが、松澤理事長がおっしゃっている力強さや積極性も、人生をより良く生きていくためには、やはり大切なことです。私も「柔の中の剛」を感じさせる学生を育成したいとかねがね願っておりました。

松澤 「柔の中の剛」……いい言葉です。素晴らしいですね。人柄の良さや優しさといった青学生のスクールカラーは、今後も決して失ってはならないものです。ただ、自分の“後輩”に対してはつい過大な期待をしてしまうものでして（笑）、私には社会でもっともっと青学出身者に活躍してもらいたいという、OBとしての思い入れが大きいのかも知れません。どこでも、誰の前でも、自分の信念を堂々と貫き、主張できる若者になってほしい。そのためにも武藤学長が掲げる「風通しの良い大学」という方向性を、全力でバックアップさせていただきます。

武藤 力強いお言葉ありがとうございます。大学全体を見渡してみますと、力強さや積極性を持つ学生もたくさんいますし、実はとてもバラエティあふれる学生たちで構成されているわけで、そうした多様性も本学の強みといえるでしょうね。

松澤 おっしゃる通りです。画一的ではないさまざまなタイプの学生がいてこそ、大学として

の総合力です。学生たちには学問はもちろん、芸術や武道・スポーツ……あらゆる分野で才能を伸ばしてもらいたいですね。

企業現場からの声を取り入れ、 教育と就職支援のさらなる充実を。

武藤 先日、松澤理事長から学生の就職活動に関する貴重なアドバイスをいただきました。私たち大学人は、企業現場を熟知された理事長からの教育や学生の就職指導・支援に関する御見識にとっても期待しているのです。

司会 本学にも少なからず企業経験のある教員がおりますが、こうした先生方は、たとえば就職指導などの面で、実にパワフルに活躍されています。本学教員も、これからはもっと積極的に企業の方々と交流する必要があるかもしれません。

松澤 それでしたら、校友の企業人の会である「青山会ネットワーク」に業種別の青山会が結成されていますから、大学各学部の先生方とこうした企業人OB・OGとの交流の場を持つというのもひとつのアイデアではないでしょうか。

司会 それはいいですね。

松澤 では、私から各青山会の責任者の方々に声をかけて、早急に実現させましょう。

武藤 ありがとうございます。今後さまざまなことで頼りにさせていただくことになるかもしれません。お忙しいとは思いますが、よろしく願いいたします。

松澤 いえいえ、忙しいのはまったく気になりません。何しろ私は、大学卒業以来、現在までずっと忙しく働いてきたのですから（笑）。どうか遠慮なく私を学院のために働かせてください。

司会 では、最後に『AGU NEWS』をお読みいただいている学生の保護者の方々に向けて、



理事長
松澤 建

●1938年東京生 ●1960年青山学院大学経済学部卒業後、日本火災海上保険入社 ●マレーシア駐在員、取締役首都圏営業本部長、常務、専務を経て、1998年社長就任 ●2001年に業界再編のトップを切る興亜火災との合併を実現させ、初代社長に就任。



学長
武藤 元昭



[司会]
総務・広報担当副学長
魚住 清彦

松澤理事長からメッセージをお願い致します。

松澤 教育とは、当たり前ですが、一人ひとりの人生にとって大切なことを、毎日の生活の中で着実に実行していくことではないかと思っています。青山学院から謙虚で、堅実で、しかし積極的に自らの人生を切りひらく気概を持つ若者をできるだけ多く輩出できるよう、今後、全力投球で理事長の責任を果たす所存です。どうか、お子様を通わせている青山学院を、私にまかせてください！

●2005年12月5日 青山キャンパス法人本部大会議室にて





相模原キャンパスが SB05Tokyo記念サステナブル建築・住宅賞受賞



青山学院大学相模原キャンパスが、国土交通省主催「2005サステナブル建築世界会議東京大会（略称 SB05Tokyo）記念 サステナブル建築・住宅賞」において「国土交通大臣賞（建築部門）」を受賞しました。

この賞は、2005年9月27日（火）

～29日（木）に、アジアで初めて開催されたサステナブル建築に関する世界会議である「2005サステナブル建築世界会議東京大会」にあわせ、サステナブル建築のより一層の普及を図るために実施されたもので、本学が受賞した「建築部門」と、戸建て住宅を対象とした「住宅部門」の2部門で募集されました。

同賞を主催する（財）建築環境・省エネルギー機構のウェブサイトによ

ると、相模原キャンパスは「省エネルギー、環境負荷低減、自然の取り込み方等の観点から、今後のキャンパスのあり方を決定する内容を持った建物」、また「竣工後の測定による実証も十分なされており、貴重なデータを提供している」と高い評価を得ています。



【サステナブル建築】

地域レベルや地球レベルでの生態系の収容力を維持する範囲内で、(1) 省エネルギーや省資源などを図り、(2) 地域の気候や文化、周辺環境と調和し、(3) 人間の生活の質を維持、向上させていくことができる建築物。



日韓露3カ国の音楽家によるチャリティー・コンサート 「みどりと平和のコンサート」開催



村治佳織氏



セルゲイ・ロドギン氏

2005年11月12日（土）、青山キャンパス ガウチャー記念礼拝堂にて、本学と国際交流基金主催による日韓露3カ国の音楽家によるチャリティー・コンサート「みどりと平和のコンサート」が開催されました。

このコンサートは、本学経営学部客員研究員でもいらっしゃる世界的なピアニストの李京美先生のご発案で、ギタリストの村治佳織氏、チェリストのセルゲイ・ロドギン氏（サンクトペテルブルク国立音楽院 元学長）をはじめとするロシアからの4人の音楽家の皆さんにご賛同いただき、毎日新聞社と朝鮮日報社の後援を得て実現いたしました。



金鍾泌 元大韓民国総理

当日は来賓としてお越しいただいた金鍾泌（キム・ジョンピル）元大韓民国総理よりメッセージをいただくなど、まさに日韓露が一堂に会し交流した素晴らしいコンサートになりました。

コンサートの寄付金は総額497,300円で、「日韓国際環境賞」ならびに「グリーンベルト運動」の活動の充実のために寄贈されました。

皆様のご協力を心より感謝申し上げます。



李京美氏



廣木一人 教授の「連歌史試論」が 平成17年度「芭蕉祭」文部科学大臣賞受賞

毎年、松尾芭蕉の命日の10月12日に、三重県伊賀市で開催される「芭蕉祭」で平成17年度の文部科学大臣賞に、本学文学部日本文学科廣木一人教授の『連歌史試論』（新典社・2004年刊）が選ばれ、「芭蕉祭」の式典で表彰式が行われました。

廣木教授に、受賞の感想と連歌研究への思いをうかがいました。

私は現在、日本文学科で連歌や和歌、謡曲など中世の韻文学を教えています。実は本学のフランス文学科出身なのです。フランス文学を学んでいた時代も主に詩に興味の中心でしたが、次第にわが国の韻文学の最高峰とも言える芭蕉の俳諧に大きな魅力を感じるようになり、大学院では日本文学を専攻。やがて俳諧の歴史を遡り、連歌研究にたどりつきました。そんなわけで今回、私の研究者としての原点とも言える芭蕉ゆかりの賞をいただいたことは、とても感慨深いものがあります。

受賞した『連歌史試論』は、私がこの十数年間で執筆した連歌史に関わる23編の論文を、連歌史の変遷と内容に即して全8章にまとめたものです。これらの論文は、従来の連歌研究における未解決の問題や疑問点を明らかにすることを目的に書かれたもので、この日本独自の文学活動が「どのような場」で、「どのような人々」によって担われてきたのか、ということを中心に連歌の変遷を追っています。

連歌がユニークな点は、多くの人が集まって行われる文学だということでしょう。



文学部日本文学科
廣木一人 教授

人が集まるには「理由」があります。たとえば、足利将軍が有力大名や公家、僧侶などを招いて行う連歌会は、お互いの関係強化の確認であり、ある種の政治的なアピールでもあります。

また人が集まるためには、それにふさわしい「場所」が必要です。この「場所」という

観点で見ると、現在、私たちが世界に誇る日本文化として認識しているものの多くは、室町時代に連歌との関わりの中で、発展していったということがわかります。すなわち、連歌会に人々を招くための場所づくりが、畳の部屋や床の間、掛け軸といった建築・インテリア、あるいは石庭などに代表される造園を進化させました。また、華道や茶道も連歌会の席と密接な関係があります。したがって、一流の連歌師は、こうした建築、作庭、華道、茶の湯等に詳しくたのです。当時の連歌師とは、いわば文化の総合プロデューサー的な存在でした。

このように人と人との関係、そして人が集まる「場」も含めた総合的な視野から連歌を考察していくと、ひたすら「個」の存在を見つめる近代以降の文学とは異なる、わが国独自の文学のあり方が見えてきます。

まだまだ未開拓の領域が多い連歌研究ですが、残念ながら若手の研究者が少ないという現状があります。今回の受賞がきっかけとなり、多くの日本文学科の学生が連歌というユニークな文学に積極的な関心を示してもらい、その中の一人でも連歌研究の道を志してもらえれば、私にとってこれ以上うれしいことはありません。



佐伯眞一 教授「戦場の精神史——武士道という幻影」が 第3回角川財団学芸賞受賞。



文学部日本文学科
佐伯眞一 教授

本学文学部日本文学科 佐伯眞一教授の著書「戦場の精神史——武士道という幻影」（NHK出版）が、第3回角川財団学芸賞を受賞しました。

『戦場の精神史——武士道という幻影』は、私が初めて手掛けた一般向けの書籍で、まさか賞をいただけるとは思っていませんでした。しかも、角川財団学芸賞の選考委員は錚々たる方々で、その意味でもとても光栄に感じています。

執筆のきっかけとなったのは、本書冒頭部分で触れたように平家物語の「越中前司の最期」の場面をどのように解釈すればいいのか、私自身が考えあぐねたことでした。この場面では、源氏方の武士による「だまし討ち」が行われており、源平がフェアプレイ精神で美しく戦っていたという一般的なイメージを大きく裏切るものです。私はこの問題を考えることを通して、「人間にとって戦いとは何か?」という根本的な問題に直面し、軍記物の研究者として自分の考えを整理する必要性を痛感しました。そこで、文学のフィールドを離れた広い視野から、武士の実像を探り始めました。確か5年ほど前のことだったと思います。

「平家物語」「太平記」の時代を生きた武士たちが持っていた倫理観とは、端的に言えば「戦（いくさ）に勝つこと」「生き延びること」であり、そのための裏切りや奇襲はめずらしいことではありませんでした。戦場の武士たちは、常にいかに生き残るべきかという切実な課題と向き合っており、中世の「武士道」とは、そういう状況から生まれた知略です。そこには合理主義的な側面さえありました。

そして、今日多くの人が信じている高潔な倫理・道徳としての「武士道」は、近代以前の「武士道」とは歴史的に隔絶されたものといえるでしょう。その高潔なイメージを決定付けたのは、武士がいなくなった明治時代に、新渡戸稲造によって書かれた『武士道（BUSHIDO, THE SOUL OF JAPAN）』の影響が大きかったと思われます。この本は、長年アメリカで教育を受け、あまり

日本史に詳しくなかった新渡戸が、アメリカ人に対して「日本人の精神」を宣伝する意図で書かれたようにも見えます。新渡戸はアメリカ人にアピールするため、ヨーロッパの騎士道をベースにオリジナルな「武士道」を創作したと一般に言われています。ですから、日本人がこの書物を読んで武士道を知るといのは、かなりおかしなことといえるのです。ところが、知識人と言われる人までが、この近代生まれの「武士道」を日本古来の伝統であると鶴呑みにされている……私は、「昔は良かった」という懐古主義の文脈で「武士道」が語られることに一抹の危惧を感じます。

誤解されがちなのですが、私はこの著書で武士という存在を否定しているわけではなく、「時代や文化のあり方によってさまざまな価値観がある」ということを言っているに過ぎません。中世の武士は名誉を重んじました。しかし、その名誉とは、平和な世の中に生きる私たちが思い浮かべる名誉とはかなり違ったものなのです。合戦＝戦争という生命をかけた現実が、きれいごとで済むわけがありません。それぞれの時代や文化に、それぞれの価値観があり、正義や名誉の“形”があります。現代に生きる私たちは、それを民族や歴史認識の“違い”と置きかえてみることで、「なぜこんなに違うのか?」と考え、歴史と人間への理解を深めることができるのではないのでしょうか。若い学生たちにはぜひそのことを知って欲しい。そんな思いから、私は本書の構想段階の2002年度に「日本文学特講」という授業で「武士道」を取り上げたほか、2003年度、2004年度に担当した「フレッシュャーズ・セミナー」でも、このテーマを取り上げました。

「武士道」に限らず、若い人たちが多様な価値観について自らの頭で考え、理解することは大切です。グローバル化が進展する現代において、民族や宗教を超えた相互理解を図ることが、私たちが正しく生きるための唯一の方策なのです。



国際マネジメント研究科 東京セミナー・上海研修報告



東京セミナーが2005年7月25日(月)より5日間にわたって行われました。

国際マネジメント研究科(以下GSIM)からは12名の学生が参加し、モスクワ大学(ロシア)、復旦大学(中国)、東北大学(中国)のビジネス・スクールの学生との交流が行われました。GSIM教員による授業、マネジメントゲーム、工場見学、国際化についての各国代表学生によるプレゼンテーションが行われました。

また8月21日(日)～8月27日(土)の1週間にわたり、上海研修が行われました。20名の学生が参加し、復旦大学での講義、そして上海東芝エレベーター工場、日立ホーム・アンド・ライフ・ソリューション上海工場、宝山製鋼製鉄所、縫製工場等の企業訪問および工場見学等を実施しました。気候にも恵まれ、無事研修を終えることができました。ご協力いただいた関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

また8月21日(日)～8月27日(土)の1週間にわたり、上海研修が行われました。20名の学生が参加し、復旦大学での講義、そして上海東芝エレベーター工場、日立ホーム・アンド・ライフ・ソリューション上海工場、宝山製鋼製鉄所、縫製工場等の企業訪問および工場見学等を実施しました。気候にも恵まれ、無事研修を終えることができました。ご協力いただいた関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。



国際マネジメント研究科に5年一貫制の国際マネジメント・サイエンス専攻が誕生します

国際マネジメント研究科では、2006年度より博士後期課程を改組し、国際マネジメント・サイエンス専攻として、学生を募集することになりました。Ph.D.プログラムは学部卒業生または卒業見込者も受験可能で、2年を修了した時点で所定の修了要件を満たした場合は、修士(国際経営学)(M.A.)の学位が授与されます。

またD.B.A.プログラムは修士学位取得者または取得見込者が入学対象者で標準修業年限は3年です。

国際政治経済学部と国連大学との共催公開シンポジウムを開催



国際政治経済学部 学部長
土山 實男

2003年12月、本学と国連大学は包括的な一般協定を締結し、さっそく大学院生の研究教育などの共同プログラムを活発に展開してまいりました。さらに、2004年より、両大学は、共同研究「Institutionalizing Northeast Asia(北東アジアの制度化)」をスタートさせています。

国際政治の「制度化」は国際紛争や国際問題を未然に防ぐ手段として、現代の国際社会においてもっとも重要なテーマのひとつです。そういう観点から見るとEUや安全保障におけるNATOなどの制度が発展してきたヨーロッパは、もっとも制度化が進んでいる地域と言えますが、逆にわが国を含む北東アジアは制度化がもっとも遅れている地域と言えるかもしれません。言い換えれば、北東アジアは、世界でもっとも不安定な地域のひとつと国際社会から見なされているのです。

そこで、本学と国連大学の共同研究では、この北東アジアの安全保障、経済、環境問題、人的資源・移動などの幅広い分野において、制度化がどの程度進展しているのかについてさまざまな角度から研究を進めています。

この共同研究には、国連大学側からはRamesh Thakur副学長はじめ、T. J. Pempe教授(University of California, Berkely)、Richard Higgott(University of Warwick)、Gilbert Rozman(Princeton University)、Thomas U. Berger教授(Boston University)、Brian Job教授(University of British Columbia)ら、世界でトップクラスの研究者と本学からは国際政治経済学部 山本吉宣教

授、高木誠一郎教授、飯田佳輔教授、菊池努教授など、分野においてわが国を代表する国際政治学者が加わっています。

2005年9月21・22日の両日、この共同研究の一環として「Institutionalizing Northeast Asia: Making the "Impossible" Possible?(北東アジアの制度化:不可能を可能にできるか)」と題する学術会議を両大学で行い、22日にはジャパン・タイムズと毎日新聞社の後援で本学総合研究所ビル12階大会議室に、多くの一般参加者を招いて国際シンポジウムを開催しました。シンポジウムでは、熱心な討論と質疑応答が展開され、それらは、9月29日付けの毎日新聞に大きく報道されました。

北朝鮮の核問題をめぐる6カ国協議、歴史認識問題などで揺れる日中・日韓関係、そして台湾海峡の問題など、解決の目途がなかなか立たない厳しい外交課題が山積する北東アジア情勢ですが、他方で、主に民間レベルで活発に展開されている経済活動、環境問題における連携、あるいは自由貿易協定(FTA)の締結など、制度化(地域の安定化)についての明るい材料もたくさんあります。シンポジウムでは、悲観的な将来像よりも、むしろ北東アジアの安定化のための積極的な議論が深められ、多くの可能性と方向性が示されたと思います。

なお、共同研究「Institutionalizing Northeast Asia」の成果は、国連大学出版会から英文で出版され、世界に向けて発信される運びです。今後も本学と国連大学が、国際問題の解決について新たなテーマを設定し、海外との共同研究を深めて学術会議やシンポジウムを開催することが青山学院大学の国際化にもプラスになるものと考えています。

林光一教授アド・グルの有志が 第1回国際宇宙ロボットコンテストで審査員特別賞を受賞

2005年10月16日(日)、理工学部機械創造工学科・林 光一教授のアドバイザー・グループ有志「AGU-MACH」が、福岡県で開催された「第1回国際宇宙ロボット(火星ローバー)コンテスト」ラジココントロール部門に参加。みごと審査員特別賞を受賞しました。



このコンテストは、2005年10月16日(日)～21日(金)開催の「第56回国際宇宙会議福岡大会」(主催:日本学術会議、社団法人 日本航空宇宙

学会他)の関連イベントとして実施。火星の表面を想定した全長約20メートルのコースに、リモコンやラジコンの自作ローバーを走行させる競技は、標本に見立てた直径6センチのスポンジボールを採取しながら、ゴールタイム



を競うほか、パフォーマンスやオリジナリティなどで総合評価されました。受賞後、キャプテンの戸貝公宣君は「連日、夜遅くまで大学に残って組み立てなどに取り組みました。でも、まさか賞を頂けるとは……びっくりしましたが素直にうれしいです。表彰式では、宇宙飛行士の若田光一さんと握手できて、大感激!」と語ってくれました。



●「AGU-MACH」メンバー

戸貝 公宣君 (理工学部機械創造工学科1年・キャプテン)
鹿島 優子さん (文学部フランス文学科4年)
北林 直樹君 (理工学部機械創造工学科1年)
矢野 一成君 (理工学部機械創造工学科1年)

大学院理工学研究科博士前期課程の草野拓也さんが 平成16年電気学会電子・情報・システム部門大会奨励賞を受賞

理工学研究科電気電子工学コース博士前期課程2年 草野拓也さん(井出英人研究室)が、平成16年電気学会電子情報システム部門大会において発表した論文『感情誘起行動型ロボット群の搬送タスクにおける行動特性』で、電子・情報・システム部門大会奨励賞を受賞。2005年9月6日(火)に早稲田大学大学院情報生産システム研究科で行われた研究部門大会において授賞式が行われました。



草野さん(左)と井出英人 電気電子工学科教授

同賞は、電気学会の電子・情報・システム部門の研究会で1年間にわたって発表された論文の中で優秀な論文に対して贈られます。草野さんの論文は、人間の感情の相互作用に基づく行動生成アルゴリズムをロボットに組み込み、ロボットがどのように動くかを研究したもので、今後、ロボットの基礎研究への活用が期待されています。

受賞した草野さんに喜びの声をうかがいました。

「引越のアルバイトで経験した荷物運びを、ロボットに手伝ってもらえないか……そんな発想からこの研究に着手しました。その際、人とロボットのコミュニケーションには感情が必要だと考え、人が感情の相互作用によりどう行動するのかを調べ検討。それをモデル化したロボットに導入するプロセスではかなり苦労しましたが、その分、充実した日々を送ることができました。そのうえ予想していなかった賞までいただくことができ、大きな達成感を味わっています。研究中は「最後までやり通しなさい」という井出先生の励ましに支えられました。あきらめずに取り組めば、結果を出すことができる……賞とともに、そんな確信を得ることができたと思います」

2005年度青山学院学術褒賞 受賞者決定

文学部教授	廣木 一人氏	『連歌史試論』
国際政治経済学部教授	大久保 典子氏	『スペイン演劇における内的葛藤の様相(1910年-1936年)』
理工学部教授	大島 力氏	『イザヤ書は一冊の書物か? — イザヤ書の最終形態と黙示的テキスト』
理工学部教授	柴田 徹氏	日露共同気球実験(RUNJOB)による宇宙線加速と伝播の系統的研究

経営学部創立40周年記念公開シンポジウム開催



1966年、経済学部の商学科を改組して「経営学部」を設置。2005年11月には創立40周年記念公開シンポジウムを開催するなど、経営学部では今、創立40周年を契機に教育・研究両面での改革を進めています。そんな経営学部の「動き」について、学部長を務める田中隆雄教授にお話をうかがいました。



経営学部長
田中隆雄 教授

経営学部の40年の歴史、そして今後の学部の課題についてお話しください。

田中 経営学部は、学生定員200名ほどの小規模の学部でした。しかし、わが国を代表する著名な研究者の方々が教員として学生の指導にあたり、多くの有能な卒業生をビジネス界を初めとする社会に送り出してきました。40年間の間に学部定員も大幅に増え、教育・研究のスケールも幅広いものとなりました。しかし、現在の私たちの大学も激しい大学間競争の最中にあります。本学の経営学部は、わが国屈指の経営学分野の教育・研究の場であるという自負はありますが、今後のさらなる向上をめざし、国際的に認知された経営学の教育・研究拠点への飛躍を図っていきたくと考えています。特に「研究」の面でのグレードアップが大きな課題と考えおり、その第一歩として、2005年7月より、本学部に設置されていた経営研究所を「グローバル・ビジネス研究所」に改称し新たに発足しました。ここでは世界に目を向けた経営学分野の最先端研究とその発信が行われます。

「グローバル・ビジネス研究所」では、具体的にどのような研究活動が行われるのでしょうか。

田中 経営学部の専任教員を中心に、国内外の研究者を招いて複数のプロジェクトチームを編成し、経済成長著しい中国を中心としたアジア地域における実践的な経営学研究を展開します。そして、その研究成果は英語の研究論文として世界に発信……そんな仕組みを作っていきます。また、このプロジェクトチームには、大学院博士後期課程で学部院生も関わり、若手研究者育成の場としても機能させ、毎年、課程における博士号取得者をコンスタントに輩出していきたいと考えています。

先日開催された「創立40周年記念公開シンポジウム」について教えてください。

田中 「グローバル・マーケットの変化と日本企業の競争力」と題されたこのシンポジウムは、変化の激しいアジアマーケット、特に中国に焦点をあて、日本の企業と経営学分野の研究者が果たす役割を再確認する場でした。同時に国際的に認知される教育・研究拠点をめざす本学部の姿勢を、あらためて内外に向けてアピールする機会でもありました。パネリストとして、わが国の研究者のほか、中国の研究者、さらにグローバルビジネスの最前線で活躍された経験を持つ企業人もお招きしました。当日は本学部の学生も多数参加しましたが、経営学の最先端領域に触れる貴重な機会となったことでしょう。**研究体制の充実とあわせて、学部生の教育でもさまざまな改革を計画されているようですね。**

田中 国際的なビジネスシーンで活躍できるリーダーの育成……それが本学部の使命です。その使命を果たすために、時代に対応した教育プログラムを提供していかなければなりません。2005年度には「カリフォルニア大学サンタバーバラ校 (UCSB) 夏季ビジネス英語研修」をスタートさせ、学生から好評を持って迎えられました。来年度からは開催規模、プログラム内容ともさらなる充実を図っていきます。また、将来的には、中国や韓国でもインターンシップを実施したいと考えています。

また、企業社会が求める基本的なコミュニケーション能力をしっかりと身につけてもらうために、1年次からの教育改革にも着手しました。来年度より、「読む」「書く」能力のほか、ディベートやプレゼンテーションの基礎を習得するための科目「経営学文献講読」を少人数クラスで開講する予定です。

さら本学部では、“モノ”ではなく“知識”を生み出す新しい産業分野に対応した新学科の設立を構想しています。コンテンツビジネス、ビジネスモデル、マーケティング、デザイン、eコマース……こうしたキーワードに関心がある若い人たちにとって、魅力あふれる実践的な教育プログラムを提供できるのではないかと考えています。

青山学院大学経営学部創立40周年記念公開シンポジウム

テーマ: グローバル・マーケットの変化と日本企業の競争力

日時: 2005年11月17日(木) 13:00~17:30

会場: 青山学院大学 青山キャンパス 総合研究所ビル12階 大会議室

【基調講演】

●伊丹敬之(一橋大学教授)

「グローバル・マーケットの変化と日本企業の競争力」

●林 偉史(立教大学教授)

「日本企業の国際競争力と東アジア: 競争と共創のシステムへ」

●陳 建安(復旦大学教授)「中国における市場経済化と国際戦略」

●服部民夫(東京大学教授)「中国経済の台頭と東北アジアの対応」

●安積敏政(松下電器(株)グローバル戦略研究所首席研究員)

「日本企業のアジアの収益性と競争力展望」

●谷敷 誠(ソニー サプライチェーン ソリューション(株)代表取締役社長)

「北アジアにおける物流戦略」

【シンポジウム】

パネリスト/陳 建安(復旦大学教授)・服部 民夫(東京大学教授)・安積 敏政(松下電器(株))・林 偉史(立教大学教授)・安本 雅典(青山学院大学助教授)・谷敷 誠(ソニー サプライチェーン ソリューション(株)代表取締役社長) コーディネーター/田中 隆雄(青山学院大学経営学部長) (敬称略)

青山スタンダード教育機構／WTO研究センター共催 WTO設立10周年記念国際学術シンポジウム「WTOと持続的開発」開催



2005年10月28日(金)、青山キャンパス総合研究所ビル12階大会議室にて、WTO(世界貿易機関)設立10周年記念国際学術シンポジウム「WTOと持続的開発」が開催されました。

前号(AGU NEWS No.29)でもお伝えしました通り、10月25日(火)～27日(木)には、世界各国から約100名の専門家を集めた「WTO発足10周年記念国際シンポジウム」が、本学正門前の国連大学(共催:本学)で開催されました。「WTOと持続的開発」は、前日までの専門家・研究者主体のシンポジウムの成果を、学生を含めた一般の方々に還元する場として、本学WTO研究センターと青山スタンダード教育機構との共催(後援:国連大学高等研究所)で行われたものです。当日、会場には若手研究者や国際機関・大使館関係者にまじって、講師の方々のお話に熱心に聞き入る本学学生の姿も見られ、学生たちにとってはWTO関係者から直接お話をうかがえるまたとないチャンスとなったことでしょう。

3日間にわたる国連大学でのシンポジウムでは、WTOによる紛争解決、大詰めが迫ったドーハ・ラウンドの課題、アジアにおけるFTA(自由貿易協定)および地域統合など、多岐に渡るテーマで専門家主体の中身の濃いディスカッションが行われましたが、本学のシンポジウムでは、特に一般の方々の関心が高い環境保全との関連にテーマを絞りました。



競争原理が働く「自由貿易」と、協調が求められる「環境保全」とは、一般的には相矛盾するものと考えられがちです。しかし、限られた地球資源のことを考えると、単に競争だけでは「持続可能」な世界を築いていくことはできません。今回のシンポジウムでは、スイス(ジュネーブ)から講師としてお招きしたWTO事務局関係者から、現在、WTOにおいて自由貿易の拡大と環境保全の両立を、明確にルールとして打ち出しているということを確認することができました。これはとても大きな収穫だったと思います。

WTO研究センターでは、これからも講演会やシンポジウムの開催を通して、学生や一般の方々に、国際貿易に係わるグローバルな諸問題の現状と解決策について考える機会を提供していきたいと考えています。



WTO研究センター所長
経営学部
岩田伸人 教授

日本サルトル学会・青山学院大学 文学部フランス文学科 主催 国際シンポジウム「新たなサルトル像は可能か？」

11月2日(水)・3日(祝・木)の両日、フランス文学科が日本サルトル学会と共に主催する、国際シンポジウム「新たなサルトル像は可能か？」が行われました。サルトル生誕100年に当たり、あらためてサルトルという存在の現代的意味を探ろうとするものです。

シンポジウム初日は、すべてフランス語(同時通訳付き)で行われましたが、その第一部は「サルトルと芸術」という、これまで強調されることの少なかった主題をめぐる、その道の第一人者、パリ第一大学教授シカール氏の他、三人の日本人が、スライド映写も交えて、絵画批評、映画、芸術論等を論じました。第二部は、イギリス、カナダ、韓国等からの参加者による、世界各国でのサルトル受容の過去と現在についての報告がありました。

2日目(3日)の中心は、第二部の共同討議「ヒューマニズムと反ヒューマニズム」で、これは最近翻訳出版されて波紋を呼んでいる、ベルナール＝アンリ・レヴィの『サルトルの世紀』の訳者、石崎晴己、レヴィの『危険な純粋さ』の訳者、立花英裕に、それぞれ異なる論点から『サルトルの世紀』に対して痛烈な批判を表明している海老坂武と清真人を配して、この本の問題提起について徹底的に討論しようとするもので、果たしてこれをめぐって考え得るあらゆる議論が提出されたと言えます。フランス人と日本人2人ずつがフランス語で発表した第三部は、国際的にも最高の水準に達するものであり、フランス人聴衆からも高い評価を得たますが、若手研究者を中心とした第一部もそれに劣らず充実していました。両日もそれぞれ100人ほどの参加者があり、このような専門性の高いシンポジウムとしては多くの参加者を集め、成功と言うべきでありましょう。



なお前週と翌日に東京日仏学院と日仏会館で行われた「サルトルと映画」という催しは、このシンポジウム企画者たちが立案から解説・同時通訳まで担当したもので、シンポジウムの一環をなすものでした。



eラーニング人材育成研究センター(eLPCO)設立記念 第1回 eLPCOオープンフォーラム開催



「第1回eLPCOオープンフォーラム(eラーニング人材育成研究センター(eLPCO)設立記念)」が、10月31日(月)に総合研究所ビル12階大会議室にて開催されました。

eLPCOでは、文部科学省より、平成17年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)、ならびにサイバーキャンパス整備事業に採択される運びとなり、本オープンフォーラムは、両取組の学内、対外広報の場ともなりました。

基調講演は、独立行政法人メディア教育開発センター理事長の清水康敬教授から「eラーニングの推進と課題」と題して、また社団法人私立大学情報教育協会事務局長の井端正臣氏から「教育改善の課題と戦略」と題して行われました。清水教授からは、eLPCOにて採択された現代GP「e-Learning専門家の人材育成」の新規性について、また昨今のeラーニングの動向に関する講演があり、井端氏からは、私立大学情報教育協会の調査に

基づいた、日本の大学が抱えるメディアを活用した教育の問題点について、講演がありました。

またeLPCOセンター長の佐伯伸教授から、「e-Learning専門家の人材育成(世界に通用する専門教育プログラムの開発と普及)」と題して、現代GPの取組計画について、eLPCO副センター長の玉木欽也教授からは、「メディアを活用した実践的授業のための教育支援者判定プログラム」と題して、サイバーキャンパス整備事業の取組計画とその特長について、説明がありました。

当日は学内関係者をはじめ、大学、教育機関、IT関連企業等学外関係者も多く参加し、計103名の方のご来場を賜り、盛況のうちに終わりました。次回第2回eLPCOオープンフォーラムは、現代GPの成果報告会も兼ね、2006年3月30日(木)に開催の予定です。



青山学院大学21世紀COEプログラム国際ミニシンポジウム 「機能性材料を目指した配位化学」開催

2005年11月7日(月)、相模原キャンパスB棟にて、21世紀COEプログラム国際ミニシンポジウム「機能性材料を目指した配位化学」が行われました。

●配位化学(錯体化学)の学問的位置づけ

配位化合物は、有機化合物と金属から成り立ち、金属のように磁石としてはたらく分子や温度湿度で色が変化する分子など、種々の機能性を持つものが合成されています。最近では、発光性の錯体も注目されており、がん治療薬、DNAプローブやレーザー素子、EL素子などの開発もなされています。更に、金属の酸化還元能を利用した触媒の開発も活発です。すなわち、配位化学は物質創製と生命科学に関わる広域な研究分野のひとつであり、新材料を発掘できる宝の山なのです。

●今回のシンポジウムの趣旨と講演会の様子

配位(錯体)化学は、主に「合成」、「溶液反応」、「光・磁性・伝導性」、「生物無機」に大別できます。本シンポジウムでは、これらの境界領域「エネルギー効率化における錯体分子の光と反応性と生命との関わり」に焦点を当て、エネルギー効率を分子レベルで捕らえる研究会を位置づけました。初めに本学21世紀COE拠点リーダーである秋光純教授が本学のCOEについて、次に長谷川が本シンポジウムについて、それぞれ趣旨説明を行いました。講演者は6名で、ウーレン工科大学のWolfgang Linert教授(パーキンソン病発病メカニズムと鉄錯体)のご講演を皮切りに、東京工業大学の石谷治助教授(CO₂→CO反応の触媒錯体)、また北里大学の石田斉助教授(人工たんぱく質錯体)にご講演して頂きました。後半では若手を中心とした構成で、本学助手の岸忍氏の座長で、東京大学助手の村田昌樹先生(ナノ電極錯体)、長谷川(高次発光性錯体)および本学COEプログラムの研究協力者である石井あゆみ氏(博士後期課程1年、薄膜型錯体)がそれぞれ最新のトピックスを提供しました。シンポジウムは終始穏やかに進行し、かつ各講演においては大変活発な議論が展開され、趣旨の目的達成に十分値する盛況な研究会となりました。



●これからの配位化学とエネルギー効率化

機能性分子である配位化合物は、集積により酸素や水素などのガスを容易に吸着するエネルギー貯蔵材料にもなります。青いバラは配位化学を取り入れることで開発に成功しました。今回のシンポジウムを通じ、不可能(=Blue Rose)を可能にするあるいは新しいエネルギー効率材料を構築する上で、配位化学は不可欠な分野であると再認識しました。なお、石井あゆみ氏は、錯体化学の学会で2年連続最優秀ポスター賞を受賞しています。かつて私が学生の頃に星敏彦教授とそうしてきたように、データを前に学生さんと頭をつき合わせ議論していると、本学から新しい機能性錯体と若手研究者を世界に発信し続けていくことの意義と必要性をひしひしと感じます。

(理工学部 化学・生命科学科 専任講師 長谷川 美貴 記)

2006年度学事暦(学部)

※大学院生は掲示板等を参照してください。

前期

4月1日(土)	オリエンテーション、履修ガイダンス、健康診断 (10日(月)まで) ※詳細は、「学年初頭行事」等で確認してください。
4月4日(火)	入学式(学部・大学院)
4月11日(火)	前期授業開始、新入生歓迎礼拝(第二部) 新入生歓迎礼拝(15日(土)まで)(相模原)
4月18日(火)	履修登録最終日(青山第一部)
4月19日(水)	履修登録最終日(相模原、青山第二部)
5月22日(月)	前期チャペル・ウィーク(27日(土)まで)
6月17日(土)	アドバイザー・グループ・デー(全キャンパス休講)
7月11日(火)	補講日(12日(水)まで)(相模原、青山第一部、第二部)
7月18日(火)	補講日(20日(木)まで)(第二部のみ) 前期定期試験期間(31日(月)まで)
8月1日(火)	清里サマー・カレッジ(8月3日(木)まで) 夏期休業期間(9月22日(金)まで)
9月30日(土)	9月学部・大学院学位授与式



後期

9月25日(月)	後期授業開始
10月8日(日)	相模原祭(9日(月)まで)
10月16日(月)	後期チャペル・ウィーク(21日(土)まで)
10月27日(金)	青山祭(10月31日(火)まで)(全キャンパス休講)
11月14日(火)	創立記念礼拝(青山第一部、第二部)
11月15日(水)	創立記念礼拝(相模原)
11月16日(木)	創立記念日(全キャンパス休講)
12月1日(金)	クリスマス・ツリー点火祭
12月19日(火)	クリスマス礼拝(青山)
12月21日(木)	クリスマス礼拝(相模原)
12月25日(月)	冬期休業期間(1月6日(土)まで)
1月9日(火)	後期授業再開
1月10日(水)	月曜日の授業実施(振替)
1月16日(火)	補講日(17日(水)まで)(相模原、青山第一部、第二部)
1月19日(金)	大学入試センター試験準備日(青山キャンパスのみ休講)
1月20日(土)	大学入試センター試験(21日(日)まで) (青山キャンパスのみ休講)
1月22日(月)	補講日(25日(木)まで)(第二部のみ) 後期定期試験期間(2月3日(土)まで)
2月3日(土)	第二部スプリング・カレッジ(4日(日)まで)
3月24日(土)	卒業礼拝、学部・大学院学位授与式

2006年度学年初頭行事についてのお知らせ

年度初頭には、各学部・学科ごとに書類配布、履修ガイダンス、学生証更新、健康診断など大切な行事があります。

日時、場所等の詳細は、青山・相模原両キャンパス所属学生とも学生情報サービス(1月以降)・学部等掲示板(青山キャンパスのみ)あるいは大学ウェブサイト(3月中旬以降に掲載)で確認してください。次号のAGUニュースNo.31でも日時、場所等の詳細をお知らせいたします。

進路・就職関係行事のお知らせ

青山キャンパス

行事	対象学年	日程	備考
自己分析・エントリーシート講座	学部3年生 院1年生	2月上旬	有料・テストのみ
SPI模擬試験			有料・当日申込
学内企業説明会			詳細は掲示板を参照

相模原キャンパス(理工学部生・理工学研究科生対象)

行事	対象学年	日程	備考
学内企業説明会	学部3年生 院1年生	2月下旬	詳細は掲示板等を参照

※追加、変更等もありますので、詳細は必ず掲示板にて確認してください。
また、就職の相談は随時受け付けていますので、来室し申し出てください。

卒業の決まった4年生のみなさんへ 卒業後の進路の報告について

青山学院大学では、みなさんに卒業後の進路を報告していただいています。就職、進学、現職の継続、留学、各種試験受験準備などの報告を、卒業の決定した4年生全員に提出いただきます。

青山キャンパスの4年生は、進路・就職センター(1号館1階)に「進路決定届」を、理工学部生は相模原キャンパス進路グループ(B棟1階)に「進路先届」を提出してください。報告いただいた内容は、進路状況のデータをまとめた「卒業生進路状況報告書」として学内で利用されます。個人の名前や就職先が学外に公表されることは決してありません。また、官公庁などへの統計資料としても必要となりますので、必ず報告してください。民間企業や公務員・教員などに内定された方には、「就職活動報告書」を提出していただいております。この報告書は、後輩の就職活動に大変役立っておりますので、併せてご提出をお願いいたします。

青山学院大学長 武藤 元昭 / 就職部長 仁科 貞文

進路報告書の提出先

青山キャンパス(文・社会科学系学部)

…………… 進路・就職センターへ「進路決定届」を提出

相模原キャンパス(理工学部、理工学研究科)

…………… 学生支援ユニット進路グループへ「進路先届」を提出

※文・社会科学系の大学院生については、学位記を受け取る際に、進路に関する調査用紙をご提出いただきます。

2005年度 父母懇談会開催報告

本学では、「大学後援会」の事業活動の一環として、在学生の保護者の皆様に対し、大学の近況をお知らせするとともに、学業成績、学生生活、就職活動等の現況について全体的な説明と個別面談を行う父母懇談会を日本全国で開催しています。これは保護者の皆様と大学との密接な関係を図ることを目的として始められた事業です。

2005年度は右記の日程で開催しました。本年度も多くの方にご参加いただき、全日程を無事終了できました。以下に、実施状況を報告いたします。

●首都圏父母懇談会…東京、埼玉、千葉、神奈川の各都県在住2・3年生の保護者の皆様を対象に、文系の各学部は青山キャンパス、理工学部は相模原キャンパスにて実施しました。対象学年が2・3年生のため、学業成績、就職について、特に重点がおかれ、現役の学生を迎えて就職活動の実体験を話してもらう学部もありました。理工学部は、相模原祭と同日開催のため、より多くの保護者の皆様でにぎわいました。

●地区父母懇談会…日本全国を東西に二分し、当該地区在住1～4年生の保護者の皆様を対象に、隔年で交互に実施しています。今年度は、西日本地区全府県の主要都市22会場と、当該地区以外の東日本地区の中から、仙台市、高崎市、名古屋市の三都市において、大学公開講演会と同日開催イベントとして実施しました。



懇談会は、教員による講演会から始まり、大学代表者の挨拶および大学の近況報告、各担当からの学業成績、就職、学生生活についての説明がありました。引き続き行われる昼食会では、全体説明会とは雰囲気も一変し、校友の方々、大学関係者と気さくにお話できる場であり、また保護者同士交流を深める場となりました。午後の個別面談では、質問内容に応じて各ブースの担当者とじっくり相談ができる時間となりました。

来年度以降、地区父母懇談会は全国の主要都市を中心に開催する予定です。今後いただいたご意見を参考に、よりご満足いただける懇談会を目指したいと思います。

●2005年度地区父母懇談会

※当該地区在住の全学年の保護者対象

対象道府県	開催都市	開催日	会場
<西日本地区>			
滋賀県	京都市	8月20日(土)	ホテルグランヴィア京都
京都府	京都市	8月20日(土)	ホテルオークラ神戸
大阪府	大阪市	8月28日(日)	リーガロイヤルホテル
兵庫県	神戸市	8月27日(土)	ホテルオークラ神戸
奈良県	奈良市	8月21日(日)	奈良ホテル
和歌山県	和歌山市	8月27日(土)	ホテルグランヴィア和歌山
鳥取県	鳥取市	9月11日(日)	ホテルニューオータニ鳥取
島根県	松江市	9月10日(土)	松江ニューアーバンホテル別館
岡山県	岡山市	7月10日(日)	ホテルグランヴィア岡山
広島県	広島市	7月9日(土)	ホテルグランヴィア広島
山口県	小郡町	9月4日(日)	山口グランドホテル
徳島県	徳島市	7月30日(土)	ホテルクレメント徳島
香川県	高松市	8月7日(日)	全日空ホテルクレメント高松
愛媛県	松山市	8月6日(土)	ホテルサンルート松山
高知県	高知市	7月31日(日)	ホテルサンルート高知
福岡県	福岡市	9月3日(土)	ホテルニューオータニ博多
佐賀県	佐賀市	9月18日(日)	ホテルニューオータニ佐賀
長崎県	長崎市	9月19日(祝月)	ホテルニュー長崎
熊本県	熊本市	7月17日(日)	三井ガーデンホテル熊本
大分県	大分市	8月20日(土)	大分全日空ホテルアシスタワー
宮崎県	宮崎市	8月21日(日)	宮崎観光ホテル
鹿児島県	鹿児島市	7月16日(土)	城山観光ホテル
沖縄県	那覇市	7月24日(日)	沖縄都ホテル
<東日本地区>			
東日本地区 全都道府県対象	仙台市	7月16日(土)	仙台ガーデンパレス
	高崎市	11月20日(日)	高崎ビューホテル
	名古屋市	11月26日(土)	ホテルキャッスルプラザ

●2005年度首都圏父母懇談会

※東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県在住の2・3年生の保護者対象

対象学部・学年	開催日	会場
文学部、文学部第二部	6月18日(土)	青山キャンパス
経済学部、経済学部第二部	5月21日(土)	
法学部	6月4日(土)	
経営学部、経営学部第二部	5月28日(土)	
国際政治経済学部	6月11日(土)	相模原キャンパス
理工学部	10月9日(日)	

Club & Circle Information

問い合わせ先 〒150-8366
青山学院大学学生部学生課
Tel 03-3409-7835

*主な文化連合会・体育連合会の活動予定。
下記大会演奏会の日程・場所は予定のものです。今後変更になる可能性もあります。

主要活動予定 (2006年1月～3月)

- アイススケート部 第78回 日本学生氷上競技選手権大会 (1月)
- フェンシング部 JOCジュニアオリンピックカップ (1月)
- スキー部 全日本スキー選手権大会 (1月)
- 卓球部 東京卓球新人優勝大会 (1月)
- バスケットボール部 第81回全日本総合バスケットボール選手権大会 (1月)
- 硬式庭球部 関東学生選抜テニストーナメント大会 (2月)
- 馬術部 東京ジュニア馬術大会 (2月)
- 航空部 第46回 全日本学生グライダー競技選手権大会 (3月)
- 水泳部 関東学生冬季公認記録会 (3月)
- ボクシング部 文京区アマチュアボクシング大会 (3月)

主要活動報告 (2005年10月～12月)

- レスリング部 全日本学生選手権 グレコローマン55kg級 優勝
- 空手道部 全国選手権女子団体形の部 優勝
- チャアリーディング部 JAPAN CUP 2005 チャアリーディング日本選手権大会
規定演技1位 総合11位
- 卓球部女子 平成17年度秋季 関東学生卓球リーグ戦 2位
- ソフトテニス部女子 第59回文部科学大臣杯
全日本大学対抗選手権大会 (女子の部) 3位
- バスケットボール部男子 第81回関東大学バスケットボールリーグ戦 優勝
- 硬式野球部 東都大学野球連盟秋季リーグ戦 優勝

News Index 2005.10～12

2005年10月上旬～12月下旬までの主なタイトルを掲載しています。

05年10月

- 硬式野球部が東都大学野球秋季リーグ戦で優勝
- バスケットボール部(男子)が関東大学リーグ戦で優勝

05年11月

- 国際コミュニケーション学科(2006年4月開設)の詳細を大学ウェブサイトに掲載
- 一般入学試験・大学入試センター試験利用入学試験要項(願書)の請求について
- 相模原キャンパス「チャリティーコンサート」義援金報告



05年12月

- 女子バレーボール部が全日本バレーボール大学女子選手権大会で優勝
- 学院におけるアスベスト使用の実態調査および処置について



杉谷 祐美子
文学部 教育学科 専任講師

誌上公開講座 No.30

青山スタンダード

教養コア科目 歴史理解関連科目 「歴史と人間(総合科目)」

キリスト教理解・人間理解・社会理解・自然理解・歴史理解という5つの領域から構成されている「教養コア科目」。単なる知識ではなく、学生が自分自身との関連において授業テーマを理解することを目的としたこの科目群には、各領域で3名の教員がオムニバス形式で講義を行う「総合科目」が設置されています。今回の誌上公開講座で紹介するのは、歴史理解関連科目で開講されている総合科目。学生にとって、もっとも身近な「歴史」にアプローチする授業といえるでしょう。

「大学」「学校」「教育」の歴史を通して「大学とは何か?」「なぜ大学で学ぶのか?」を考える

みなさんはどのような目的をもって「大学」に進学し、なぜ今この「青山学院大学」で学んでいるのでしょうか?

この講義では、みなさんにとってもっとも身近な存在である「大学」「学校」「教育」を歴史的に考察します。各時代における大学・学校の特性、課題、そして社会の中で果たす役割を理解することによって、経験的に知りうることから一歩距離を置き、大学・学校をまずは客観的にとらえ直してみましょう。そして、現代社会が大学や学生に求めている課題を考えるとともに、自分がなぜ大学で学ぶのか、自分自身の位置づけや目的意識を明確にしたいと思います。

3名の担当教員はいずれも教育の専門家ですが、同じ対象を扱いながらも、独自の観点からアプローチすることによって、三者三様の持ち味を出しています。時に意見を異にするかもしれませんが、それも物事は多面的に理解できることをみなさんに学んでもらいたいからです。大学での学びは、正解が一つではありません。「自分」にとってどのように意味があるかを念頭に置きつつ、主体的に問題を考えることこそ、大学での学びと言えます。私たち教員はあくまでも、その材料を提供するにすぎません。「大学とは何か?」という難題を一緒に考えながら、みなさん自身が自分なりの答えを見つけだすお手伝いができれば、と願っています。

受身になりがちな大人数の講義ですが、毎回の小レポートを通じて、みなさんの考えを深めるとともに、教員とコミュニケーションをはかってもらいたいと思います。大学生としての自覚をもって、「能動的な受け手」になってください。



「戦後高等教育制度の拡大と構造変動」

文学部 杉谷祐美子専任講師



日本は、戦後60年間で大学・短大への進学率が5倍近く増大しました。では、こうした量的変化は、どのような質的変化を日本の大学にもたらしたのでしょうか?このパートでは、進学率、入学試験制度、教育課程、学生像を取り上げながら、各時期の大学の特質を探り、現代の大学、教員、学生に求められている課題を考えます。

1. エリート教育の連続と断絶(1945~1960)
2. マス化の衝撃(1960~1975年)
3. 質的マス化の課題(1975~1990年)
4. ユニバーサル化への道(1990~2005年)

「青山学院の歴史とゆかりの人々」

文学部 佐藤由美非常勤講師



このパートでは、青山学院ゆかりの人々を取り上げながら、学院の歴史についてお話しします。その際、各時代の社会情勢や国際関係、日本の学校制度はどうなっていたのかも織り交ぜながら講義を進めます。授業をきっかけに「自分の大学」の歴史を知り、大学で学ぶことの意味についてさらに考えを深めてください。

1. 草創期の青山学院と宣教師たち
2. 青山学院の制度的変遷とその特色
3. 青山学院と台湾の教育
4. 青山学院と「朝鮮」の教育

「歴史の視点から見る現代の教育課題」

文学部 友野清文非常勤講師



これまでみなさんが受けてきた教育がどのようなものか、学校とはどういう性格を持っているのか、そして今教育に何が問われているのか……それがこのパートのテーマです。できるだけ具体的なトピックを通して、みなさんの体験の中にある「学校」や「教育」を相対化・客観化する素材を提供したいと考えています。

1. 近代の学校とは何か —なぜ学校に行くのか
2. 私立学校の意義 —私学の「自主性」と「公共性」
3. 「戦後教育とは何か」 — 発達する権利・学ぶ自由
4. ジェンダーと教育を考える — 教育における平等

春期休業中の窓口案内 対象期間 2/6~3/31

部 置	窓口事務取扱期間	曜 日	取 扱 時 間	備 考
青山キャンパス	教 務 課	2/28~3/31	月~金 9:00~19:00(11:30~12:30は窓口停止) 土 9:00~19:00(11:30~14:00は窓口停止)	2/6~2/27は窓口停止 4/1より平常通り
	教 職 課 程 課	3/9~3/31	月~土 9:00~16:00(土は11:30まで)	3/9は19:00まで 4/1より平常通り
	学 生 部	2/28~3/31	月~金 9:00~19:00(15:00~16:00は窓口停止) 土 9:00~19:00(11:30~16:00は窓口停止)	2/6~2/27,3/25は窓口停止 4/1より平常通り
	進 路 ・ 就 職 セ ン タ ー	2/20~3/31 (2/27は閉室)	月~土 9:00~16:00 (月・水・金は19:00まで,土は12:00まで)	窓口停止時間(月~金)11:30~12:30, 16:00~17:00。資料室は月・水・金19:00、 火・木17:00、土13:00まで利用できます
	図 書 館	2/20~2/25 2/28~3/31	月~土 9:00~19:00	貸出期限を厳守してください。休館中の本の返却は正面向口脇のブックポストに入れてください 4/1,3は9:00~19:00,4/4より平常通り
	大 学 院 事 務 室	3/9~3/31	月~土 9:00~18:30(土のみ13:00まで) (11:30~12:30,16:00~17:00は窓口停止)	2/6~3/8は入学試験業務のため窓口停止 修士論文最終試験日は開室
	専 門 職 大 学 院 事 務 室	2/6~3/31	月~土 9:00~16:00(土のみ13:00まで)	窓口停止時間11:30~12:30
	広 報 入 試 セ ン タ ー	2/6~3/31	月~土 9:00~17:00(土のみ13:00まで)	
	情 報 科 学 研 究 セ ン タ ー	2/6~3/31	月~土 9:00~19:00	年度未処理の為、施設およびネットワーク利用停止期間があります ※コンピュータ利用日程は掲示板参照
	国 際 交 流 セ ン タ ー	3/1~3/31	月~土 9:00~16:00(土のみ11:30まで)	2/6~2/28は窓口停止
	外 国 語 ラ ボ ラ ト リ ー	3/1~3/31	火・金 9:00~19:00	2/6~2/28は窓口停止
	学 生 相 談 セ ン タ ー	2/6~3/31	月~土 9:00~17:00(土のみ11:30まで)	火・金の夜間閉室は4/1より 昼休み11:30~12:30
	保 健 管 理 セ ン タ ー	2/6~3/31	月~土 9:00~16:00(土のみ11:30まで)	昼休み11:30~12:30 4/1より平常通り
	宗 教 セ ン タ ー	2/6~3/31	月~土 9:00~17:00(土のみ13:00)	4/1より平常通り

2月8日(水)~2月27日(月)の期間は、2006年度入学試験のため青山キャンパスへの入構が制限されます。
上記期間に入構の場合は警備室に用件を告げ許可を得た上で、西門または東門から入構してください。

ユニット	グループ	窓口事務取扱期間	曜 日	取 扱 時 間	備 考
相模原キャンパス	学生支援ユニット	スチューデントセンター	2/27~3/31	月~土 9:00~16:00(土のみ11:30まで) 窓口停止時間11:30~12:30	2/6~2/25,3/25(学位授与式) 4/4(入学式)は窓口停止 4/1より平常通り ※2/14・15は追試験業務のみ窓口事務を行います
		学 務 グ ル ー プ ※			
		進 路 グ ル ー プ			
		国 際 交 流 グ ル ー プ			
		学 生 生 活 グ ル ー プ			
	健康管理グループ(保健管理センター事務局)				
	健康管理グループ(学生相談センター事務局)				
	教育・学習支援ユニット	授 業 支 援 グ ル ー プ	2/6~3/31	月~土 9:00~17:00(土のみ13:00まで) 窓口停止時間11:30~12:30	
		情 報 教 育 支 援 グ ル ー プ (情報科学研究センター)	2/6~3/31	月~土 9:00~17:00(土のみ13:00まで)	毎月第4水はメンテナンスのため、13:30よりPC教室利用不可。年度未処理に伴う利用案内は別途お知らせします
		図 書 グ ル ー プ (図 書 館)	2/6~3/31	月~土 9:00~17:00(土のみ13:00まで)	3/1~3/4蔵書点検のため閉館 4/1より平常通り
研究支援ユニット	メディアライブラリーグループ (外国語ラボラトリー事務局)	2/6~3/31	月~土 9:00~17:00(土のみ13:00まで)	4/1より平常通り	
	研 究 支 援 グ ル ー プ				
企画・渉外・庶務ユニット	企 画 グ ル ー プ				
	地 域 渉 外 交 流 グ ル ー プ	2/6~3/31	月~土 9:00~17:00(土のみ13:00まで)		
経理・施設ユニット	庶 務 グ ル ー プ				
	経 理 ・ 施 設 グ ル ー プ				
宗 教 セ ン タ ー		2/6~3/31	月~土 9:00~17:00(土のみ13:00まで)	4/1より平常通り	

詳細は各掲示板をご覧ください。

成績通知について

2005年度の成績通知書は、卒業決定者以外の学生は3月中旬に保証人住所宛へ郵送されます(除大学院)。卒業・修了決定者については、学位授与式当日、学生本人に配付されます。

また、在学生は2006年4月のオリエンテーション開始日より学内情報端末から各自成績通知書を印刷し、確認してください(除大学院博士後期課程)。

2005年度学位授与式・卒業礼拝

2005年度学部卒業生および大学院修了生を対象として、下記のとおり「学位授与式」が挙行されます。これに先立ち、3月25日(土)10:00~11:00にガウチャー記念礼拝堂(青山キャンパス)において、卒業礼拝が挙行されます。

	学部	大学院
期日	3月25日(土)	3月25日(土)
時間	13:00~	16:00~
場所	青山学院記念館(青山キャンパス)	ガウチャー記念礼拝堂(青山キャンパス)

卒業・進級に関するお知らせ

対 象	日 程	時 間	場 所
卒業・修了決定者氏名発表			
昼間部	3/9(木)	10:00	学生情報サービス
第二部(夜間部)			
理工学研究科			
大学院 (除理工学研究科)	研究科により発表日が異なるので大学院事務局および専門職大学院事務局掲示板で確認してください		
卒業見込決定者氏名発表(理工学部のみ)			
理工学部	3/10(金)	10:00	学生情報サービス
進級決定者氏名発表			
相模原キャンパス在学生 (除理工学部)	3/9(木)	10:00	学生情報サービス
第二部2年生			

※電話による問い合わせには一切応じておりません。

※卒業・修了生は、必ず2月28日(火)までに借りている図書を図書館へ返却してください。

※4年生は全員、卒業後の進路報告をする必要があります。
青山キャンパスの学生は進路・就職センターに「進路決定届」を、
相模原キャンパスの学生は学生支援ユニット進路グループに「進路先届」を提出してください。

大学・大学院学費納付について

(大学院の学費納付の期限等については大学院要覧を参照してください。)

〈学部生〉

1. 学費振込依頼書発送・納付期限等について

- (1) 前期振込依頼書発送予定 4月上旬【納付期限4月下旬】 後期振込依頼書発送予定 9月上旬【納付期限9月下旬】
- (2) 学費振込依頼書は、上記の日程で保証人宛(申し出のあった場合は学生宛)に送付いたします。
- (3) 学費振込依頼書に記載の銀行本・支店での振込みは、振込手数料が無料です。その他の都市銀行、地方銀行、信用金庫、信用組合、農業協同組合等での振込みは、振込手数料が必要になります。

※ご注意 自動振込機(ATM)による振込は絶対にしないでください。(学費納入の確認が不可能なため。)

2. 下記事項問い合わせ先(学費未納等事故防止のため)

- (1) 住所変更(保証人・本人) → 学生部厚生課(青山)・学生生活グループ(相模原)
- (2) 学費の延納・分納を希望する場合 → 学生部学生課(青山)・学生生活グループ(相模原)
- (3) 休学・退学を希望する場合 → 昼間部(3・4年)および第二部は学務部教務課(青山)
→ 昼間部(1・2年、理工学部全学年)は学務グループ(相模原)
- (4) 学費振込依頼書を紛失した場合 → 本部経理部出納課
青山キャンパス 03-3409-8111(代表)
相模原キャンパス学務グループ 042-759-6003(ダイヤルイン)
相模原キャンパス学生生活グループ 042-759-6004(ダイヤルイン)

3. 編入学・転部・転学部・転学科・再入学の学生の学費は、経理部出納課にお問い合わせください。

4. 4年次で留年した学生の学費振込依頼書発送については、前期は5月中旬【納付期限6月上旬】です。後期は10月中旬【納付期限11月中旬】になります。

5. 年間学費を一括して納付することもできます。(4年次再修業者を除く)

希望される場合は学生部学生課・学生生活グループに申し出てください。

6. 教育ローンについて

本学では銀行と特別に提携した、有利な条件の「教育ローン」があります。詳細については、AGUニュース第31号(3~4月号)に掲載いたします。

2006年度 大学学費一覧表(入学年度別)

単位:円

学部・学科	2005年度入学生		2004年度入学生		2003年度入学生		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
昼間部	教育学科	541,000	386,000	541,000	386,000	486,000	386,000
	英米文学科	540,200		540,200		485,200	
	フランス文学科	541,000		541,000		486,000	
	日本文学科	541,000		541,000		486,000	
	史学科	542,000		542,000		487,000	
	心理学科	573,000		573,000		518,000	
	経済学部	542,000		542,000		487,000	
	法学部	543,000		543,000		488,000	
	経営学部	542,000		542,000		487,000	
	国際政治経済学部	563,000		563,000		498,000	
理工学部	828,000	557,000	828,000	557,000	763,000	557,000	
第一部(夜間部)	教育学科	310,500	242,500	309,500	242,500	289,500	242,500
	英米文学科	309,700		308,700		288,700	
	経済学部	311,500		310,500		290,500	
	経営学部	311,500		310,500		290,500	

転部・編入学・転学部・転学科・再入学・留年等は除く。

2006年度 大学院学費一覧表(入学年度別)

単位:円

研究科・専攻	2005年度入学生		2004年度入学生	
	前期	後期	前期	後期
文学(教育)博前・博後	323,500	257,500	273,500	257,500
文学(英米)博前・博後	322,700		272,700	
文学(フランス文)博前・博後	323,500		273,500	
文学(日本文)博前・博後	323,500		273,500	
文学(史)博前・博後	324,500		274,500	
文学(心理)博前・博後	361,500		311,500	
経済学博前・博後	324,500		274,500	
法学(ビジネス法務を除く)博前・博後	325,500		275,500	
法学(ビジネス法務)修士2年制・博後	415,500			
法学(ビジネス法務)修士3年制	338,000		180,000	
経営学博前・博後	340,500	257,500	290,500	257,500
国際政治経済学修士・博後	465,500		365,500	
国際マネジメント博後	465,500		365,500	
理工学博前	560,000	373,000		373,000
理工学博後	590,000		490,000	
国際マネジメント専門職2年制	656,000	378,000		
国際マネジメント専門職3年制	546,000	268,000	546,000	268,000
法務専門職	708,000	500,000	708,000	500,000
会計プロフェッション専門職	807,000	600,000		

博前は博士前期課程、博後は博士後期課程 ※留年は除く
問い合わせ先:経理部出納課 03-3409-6479(直通)

2006年度一般入学試験日程

●一般入学試験 試験会場：青山キャンパス

学部・学科・コース・方式	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続締切日
理工学部 物理・数理学科 化学・生命科学科 機械創造工学科 情報テクノロジー学科 電気電子工学科 経営システム工学科		2/10(金)	2/17(金)	2/24(金)
		2/11(土)		
文学部 教育学科(B方式) 英米文学科(A方式) フランス文学科(A・B方式) 日本文学科(B方式) 史学科 心理学科量問主コース 教育学科(A方式) 英米文学科(B方式) 日本文学科(A方式) 心理学科夜間主コース	1/6(金)～ 1/27(金) 郵送受付に限り ます(締切日消印有効)	2/13(月)	2/20(月)	2/27(月)
		2/14(火)		
		2/15(水)	2/21(火)	2/28(火)
		2/17(金)	2/23(木)	3/2(木)
経営学部 経営学科(A・B・C方式)		2/15(水)	2/21(火)	2/28(火)
法学部 法学科	1/6(金)～ 1/31(火)	2/17(金)	2/23(木)	3/2(木)
国際政治 経済学部 国際政治学科(A・B方式) 国際経済学科(A・B方式) 国際コミュニケーション学科(A・B方式)	郵送受付に限り ます(締切日消印有効)	2/18(土)	2/24(金)	3/3(金)
経済学部 経済学科(A・B・C方式)		2/19(日)	2/25(土)	3/6(月)
文学部 第二部 教育学科 英米文学科(A・B方式)	郵送受付期間 (締切日消印有効) 1/6(金)～ 2/15(水) 窓口受付日 (於：青山キャンパス) 2/19(日)のみ	2/27(月)	3/4(土)	3/13(月)
経済学部 第二部 経済学科				
経営学部 第二部 経営学科				

※入学手続締切日までに、入学金を除く学費等についての延納(入学申込手続)を許可された者の入学完了手続締切は3月24日(金)です(正規合格者のみ対象)。

ATM利用時間延長について

青山キャンパス総合研究所ビル1階の三井住友銀行ATMの稼働時間が2006年1月10日より以下になりました。

●平日 9:00～19:00

土曜日、休日、祝日は休止しています。

その他、詳細は決定し次第お知らせいたします。

高校1・2年生のための大学説明会開催報告

2005年11月13日(日)、青山キャンパスにおいて「高校1・2年生のための大学説明会」が開催されました。当日は、歓迎礼拝、保護者を対象とした大学ガイダンス、大学紹介・入試概要紹介、個別進学相談、リスニング試験体験などが行われ、本学への進学を希望する熱心な高校生とご父母1,890名が来場しました。

「青山学院大学町田グラウンド」奉献式

2005年9月14日(水)、「青山学院大学町田グラウンド」(東京都町田市)にて、奉献式が行われました。

町田グラウンドは約46,300㎡の敷地を有し、既存の軟式野球場兼グラウンド、砂入り人工芝のテニスコートのほか、食堂やトレーニングルーム等を備えたクラブハウスが配置されます。今後、馬房及び馬場等の施設や、その他の球技に対応するための整備工事が行われ、2006年1月には完成する予定です。



会計プロフェッション研究科よりお知らせ

会計プロフェッション研究科は、昨年4月に開設し教育プログラムは順調に進んでいます。本研究科は、青山学院の教育方針を堅持し、新しい公認会計士試験制度と国際的な職業会計士教育の国際会計士連盟(IFAC)の基準に完全に合致したカリキュラムによって授業が活発に行われています。本年5月の短答式試験と8月の論文式試験の日程と時間・サンプル試験問題等の試験概要もWeb上で公表されています。新試験制度では、本研究科修了生は、短答式試験の100問の内80問が免除となるメリットがあり、また科目合格制も導入されています。本研究科では、授業でこれらに対応すると同時に、特別答練講座も開設しました。また2人の専任教員が新試験委員に就任しており、本年及び来年にむけて万全の体制で臨もうとしているところです。

アドバイザーグループ紹介④

「渋谷・原宿・青山の街を楽しむ」〈井口アド・グル〉

私のゼミでは、社会実験や調査、統計分析を通して街の将来を展望していますが、アド・グルでは、地元のイベント等に参加しながら、今の街を楽しむことを狙いとしています。今年、メンバーは青山地区最大のイベント「青山まつり」の大パレードで、港区長とともにパレード先頭を行進しました。来春は、東急文化会館跡地にて、私が企画している「渋谷イースト芸術祭」に参加してもらう予定です。



経営学部 井口典夫教授

先端的都市文化の象徴であり、さまざまな可能性を秘めたこのエリアで学ぶ

生には、単なる来訪者としてではなく、主体的な参加者(主役)になってほしいと願っています。私は神宮前生まれなので、この界隈のどこに行っても知人・友人ばかりです。中には著名な方も数多くありますが、学生がアド・グル活動を通して、そうした環境の中で何かに感動を覚え、努力し、そして活躍している話を聞くと、大きなやりがいを感じます。これからも学生一人ひとりの夢を実現するためのお手伝いを、私なりにしてあげたいと思っています。



AGUニュースについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニュース」を年5回(1月、3月、5月、7月、10月)発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内AGUニュース専用スタンドにて配布しています。

●なお、「AGUニュース」を確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、住所変更の手続きをお取りください。

事務取扱窓口 青山キャンパス→学生部厚生課
相模原キャンパス→学生生活グループ